

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
52

2017 皐月・水無月

特集

2017年度始動
「生きる力をサポート」できる道院づくりを



特集

2017年度始動 「生きる力をサポート」できる道院づくりを

新年度が始まり一か月。新しく仲間を迎えた道院も多いのではなからうか。道院の内では、そこに集う人たちが、心と体を磨き合
い、道院の外では、それぞれが教えを実践していく。そのためにも、道院は「生きる力をサポートする場」でありたい。
そこで、本特集では、金剛禅らしい道院の環境づくりについて提唱したい。

担当／宗務部

はじめに

架け橋たれ——少林寺拳法創始70
周年のテーマです。このテーマに
は、私たち一人ひとりが、人と人、
何かと何かをつなげ、新しい関係を
生み出していこう、という想いが込
められています。

孤独感を感じている人が多い今の
社会で、道院は、人と人がつなが
り、よりよい関係を築いていける場
でありたいものです。

心と体の健康を

昨年の道院長研修会では、宗由貴
少林寺拳法グループ総裁が、いず
れ日本社会が直面する「2025年
問題（＊1）」に対し、少林寺拳法グ
ループとしてできる取り組みについ

て話されました。そこでは、高齢者
のこころとからだの健康年齢の引き
あげや、介護をする人の健康維持に
むけて、少林寺拳法健康プログラム
を活用していこうと呼びかけられま
した。

このプログラムは、年齢・体力に
応じて、からだを無理なく動かし、
爽快感を味わいながら、健康的な人
生を送っていただくために開発され
たものです。気持ちのよい運動は、
体と心をつレッシュさせてくれま
す。また、仲間と一緒にいうこと
で、自然と会話も増え、いきいきと
してきます。そこが道院のよさでも
あります。もちろん、道院長（MC
有資格者（＊2））のオリジナリテイ
でアレンジすることも可能です。

全国的にも健康プログラムを実施
している道院が増えつつありますの

で、さらに広げていきましょう（＊
3）。

＊1 団塊の世代が2025年頃ま
でに後期高齢者（75歳以上）に達する
ことにより、介護や医療費等の社会
保障費が急増したりするなど、さま
ざまな問題が生じると予測されてい
ます。

＊2 MC資格認定・更新研修会の
開催日は、マイページの参考書式
「行事予定表」にて確認できます。

＊3 「あ・うん」VOL. 49特集も
ご覧ください。

易筋行と鎮魂行、 そして問法修学

道院は金剛禅の修行の場であり、
私たちは道院と日常とを往来しなが
ら心を育み、心豊かに生きていこう



と修行をつんでいます。

さて、指導者とは、「道を指し示し、導く者」と書きますが、指導者は拳士に何を指導しているのでしょうか。それは、「**靈止**としての生き方」であり、「生きる力を育てていくこと」です。では、具体的にどうすることが、拳士の生きる力の醸成につながっていくのか――。常にその問題意識を持って、指導に当たりたいものです。

道院では、**易筋行**に多くの時間が割かれます。だからこそ、易筋行が人づくりにどうつながっているのかを、毎回振り返ることが大切です。例えば、技法修練を拳士



個人の身体能力(筋骨の強化や神経系の発育など)の向上にどうつながっていくか、あるいは法形や組演武を通じて、よりよい人間関係づくりにどうつながっていくか、などです。「行としての少林寺拳法」の指導のあり方について、教区や小教区でもぜひ情報交換してみてください。

つぎに、鎮魂行についてです。鎮魂行には、一連の順序があります。が、ややもすると、形骸化してしまうことはないでしょうか。自己の魂を鎮めるにふさわしい空気をどうつくるかが大切です。そのためには、教典の一つ一つの言葉を、丁寧に、落着きのある速さで唱和します。

また、座禅では、調息法とともに、宇宙の精気が自己の体内に入り、自己に宿っているダーマの徳性を発現する、というイメージを描きます。毎回の修練において、鎮魂行を丁寧にやっていくことで、ダーマの分霊をもつ「**靈止**」としての自覚が呼びさまされ、社会の中で生きる人間としての道徳性を育むことにつながってきます。

そしてもう一つ忘れてはならないのが、「**問法修学**」です。問法修学とは、指導者が拳士に問いかけ、拳士からの答え(あるいは、考え、主



体性など)を引き出すことをいいます。また、拳士が指導者に質問し、指導者がそれに答えたり、あるいはヒントを与え、拳士が自ら答えを導き出せるように指南していくこともそうです。問法修学は、面授面受が原則です。

「**啐啄同時**」という禅語があります。ヒナが卵から産まれ出ようとすると、殻の中から卵の殻をつついて音を立てます。これが「啐」です。そのとき、すかさず親鳥が外から殻をついて破る。これが「啄」。この「啐」と「啄」が同時にあって初めて、

殻が破れてヒナが産まれます。これは、師と弟子の関係としても学ぶべき言葉です。

易筋行、鎮魂行、そして問法修学の意義を見直し、それらをバランスよく修行させることで、拳士一人ひとりの「**生きる力**」につなげていきたいものです(*4)。

*4 金剛禅講習会や僧階補任講習(聴講可)にもぜひご参加ください。

儀式のあり方

ところで、長い修行の過程には、必ず節目があります。この節目に行うのが「儀式」です。

5月の開祖忌法要や入門式、達磨祭など、これらの儀式がより意義をもつためには、全体を司る導師の所作が要となります。導師は、一つ一つの動作――例えば「合掌」という所作、あるいは教典や表白文(巻物)を「取る」「広げる」「巻く」「置く」といった所作など――に神聖さと莊嚴さをもって行うことが大切です。そして、その導師の所作に注目する人たちの気持ちが共鳴することで、その儀式が形式を超えて特別の意味をもつものとなり、さらなる修行や明日への活力ともなるのです。



なぜ、絵本？

昨年の道院長研修会では、「絵本で広げよう金剛禪プロジェクト（絵本プロジェクト）」を紹介しました（*5）。

すでに道院において、絵本の読み聞かせを定期的に行っていたところもあったようですが、教団全体としてこのプロジェクトを立ち上げたことには、その目的があります。

それは、絵本の読み聞かせを通じて、子供たちの想像力を育くむと

もに、子供たちのまなざしを鏡に指導者の心を磨いていく、という相乗効果です。絵本の中には、学校のテストのような、いわゆる「答え」がありません。一人ひとりが物語りを想像する。イメージを膨らませてみる。読み手である指導者は、子供たちの想像力を引き出すよう問いかけ、思ったことをどんどん発言させる。そんな対話を大切にします。

また、絵本には自己肯定的な内容が多くありますから、絵本に触れることで、子供たちに自己肯定感が芽生えやすくなります。それは、自己



確立の元になります。

道院で絵本の読み聞かせを行っていると、子供たちがふだん見せない表情をしたり、発言をしたりすることに気づかれます。「あ、この子はこんな表情するんだ」とか、「この子は、こんなによくしゃべる子だったのか」などの発見があり、もっと子供たちのことを知ることができ、好きになります。

また、指導者も子供たちから「見られている」という感覚を持つことも大切です。そうすると、子供たちの反応から、子供との接し方を振り返ることもできます。指導者が、世間体やプライドといった大人の世界の殻を割り、子供たちの自由な世界に入り、共に笑い、共に楽しむ。そして、そんな道院には楽しい空気が流れ、居心地がよくなっていく。それが、絵本プロジェクトのビジョンです。

現在、モデル道院をはじめ、新たに参画された道院も増えていきます。公式サイトでは、随時プロジェクトの情報を更新していきますので、ぜひご覧ください（*6）。また、プロジェクトに取り組まれている方々の情報交流ができるグループサイトも展開していますので、ぜひご参加く

ださい。

*5 「あ・うん」VOL. 47 特集もご覧ください。

*6 公式サイト

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/activities/project>

おわりに

今の時代だからこそ、金剛禪が必要です。そして、この運動の推進者としての道院長と、拠点としての道院の存在はますます大きくなっていきます。道院長が人と人との架け橋になり、道院が地域との架け橋になる。2017年をそんな一年間にしたいきましょう。

◆役員人事（2017年度）

責任役員

須田 剛（就任）

安田 嘉昌（定年により退任）

総代

片岡 三郎（就任）

矢島 隆禪（定年により退任）

監事

石井 利直（就任）

須田 剛（退任）

強く生きるということとは…… 負けないことではなくて

「『強く生きる』ということは決して負けないことではなくて、誰のせいにもしないこと。言い訳しないで生きること」(ボンボヤージュ「ちびギョラ」)、これ、いいでしょ」というので、インターネットで検索すると、どういっ
わけか作者より関ジャニ∞の名前が出てき
ました。結構若い人が共感しているのかな
……。

うまくいかないこと、負けたなと思うこと
を、ごまかさず、他人のせいにはせず、再起の
ために努力する、それしかないぞ、と自分を
励ます言葉？ それとも、暗に押しつぶさ
れ、負けてしまいそうなこの世の中、誰かが
何とかしてくれるなんて思えないぞという、
社会に向けた言葉だろうか。

似たような言葉が頭に浮かびます。自分の
行い、思いや言葉や行動(身口意の三業)の結
果は必ず自分に返ってくるので、自分の行い
のすべてについて責任を取らなければならな
い自業自得、因果応報の思想。だから、祖先
の崇りや前世の因縁でもなく、神によるもの
でも、世間の信賞必罰といった他律的なもの

でもなく、あくまでも自らのうちに完結する
という自己責任倫理。これは仏教の教えでし
たか。

でも、「自己責任」という言葉が、自分の行
いに対して用いられるのと、他人の行いに対
して用いられるのでは、意味が違ってくるよ
うに感じます。自分の行いに対していう場合
は、「諸悪莫作 衆善奉行 自淨其意 是諸
仏教(すべて悪いことをなさず、善きこと
を行い、自らの心を清めること、これがもろ
もろの仏の教えである)」。自分の生き方を正
す教えであり、現実には財産を増やし楽に生
きている悪い人がいるのは知っているけれど、
その教えを信じてそう生きることが正しい生
き方だと考えているということでしょう。

自分の言動が、本人はもとより社会や周囲
の人々に影響するという「当事者としての責
任」を自覚せず、他人に対して「自己責任だか
ら」と言うとき、それはあたかも、「お前が
悪いから私は知らん。私には責任がない」と
言っているようで、それは「自己無責任」「他
者責任」論になってしまいがちです。

ましてや、そのことを決裁できる立場、決
定権者に意見や策を述べることができる立
場、連絡調整ができる立場、決定への雰囲気
をつくる立場にあるとき、つまり、なにがし
かのできる人がある人がいなかったり、ほ
かに押しついたり、「知らない」と言ったり、
「上が決めたことだから」と言うことは、自己
責任倫理とはちよつとかけ離れているように
感じます。そうだから、自業自得、因果応報
の思想は、一神教の神の懲罰に劣らず、いや
それ以上に厳しい倫理といわれるのでしょう。

犠牲者300万人以上を出した戦争体験の
中から、開祖を含め、多くの人々が、これは
変わらなければならないと考えた、日本の組
織の「権限と責任が乖離した権力構造」、責任
が曖昧になる組織構造と思想風土が、あの
三・一一後の原発事故を巡る東電や政府の迷
走ぶりに、きょうも変わることなく存在する
という指摘があります。あの戦争における仏
教教団の行いを合わせて考えるとき、釈尊の
正しい教えを現代に生かすとした立宗の意義
を感じるのです。

わたし^の 工夫

新連載

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



浜名湖西道院
藤森正和道院長

工夫¹ 体幹トレーニングの活用

以前、私自身が脊椎管狭窄症を患い、この先どうしたらよいのかと思い悩んでいるときに、サッカーの長友佑都選手が行っていた「KOBAS 式体幹バランストレーニング」を知ったのがそもそもの始まりでした(*)。



そしてこれは少林寺拳法の技法を支えるための身体づくり^{からだ}に役立つと思い、道院においても毎回体幹トレーニング(チューブトレーニング)を採り入れるようになりました。

体幹トレーニングでは、前後左右に体重移動するときのバランスを保つ感覚や、体の軸をつくる感覚を養成することによって、〈柔軟性〉〈安定性〉〈バランス〉〈運動性〉を高めることができます。

道院では大人も子供も楽しみながら取り組んでくれており、いつの間にか技が上達している、という手応えを感じています。

*編集部注：現在、藤森道院長は「KOBAS 式体幹バランストレーニング」のライセンスを所有している。

工夫² 心のコミュニケーションを大切にする

金剛禅には教えがある、というところに指導の奥行きがあるのだと思います。先日、宗道臣塾を受講したのですが、いろいろと考えさせられたことで、子供たちに対する私の認識や接し方が変わったのではないかと感じます。以前は「何とかしてやろう」という思いが強く、親御さんもそれを期待していたのですが、子供たちにとっては私の指導がきつかったようです。今は、その子なりの理解度を見極めて、その子に合わせて指導するよう心がけています。子供の目線に立って、子供の世界を理解し、接すれば、ちゃんと理解してくれるものです。加えて、子供たちの失敗後のフォローは必ず行うようにしています。子供の心は繊細ですか

ら、決して乱暴に扱ってはいけないと思っています。

道院長という役職に誇りを感じて日々学ばせていただいています。



道院長

vol.36

元気の素



御船道院

道院長 緒方 公(42歳)

比べるのは過去の自分

御船道院の指導方針は「楽」です。長く続けるためには楽しむ気持ちが必要ではありません。もちろん、ただ楽しむだけではなく、努力した結果、成長した自分に気づく楽しさを求めています。そのために、現在から少し前の自分を思い出してもらいます。そうすると、少しでも成長し、変化した自分を認識することができます。この確認作業は、他者と比べるのではなく、過去の自分と現在の自分を比べることで、自己確立の進捗状況を確認することになります。



道院長になってから、数えたらきりがありません。道院長冥利に尽きると感じたことがあります。道院の中で、とても後輩の面倒見がよいある拳士がいまいました。しかし彼は、中学校では問題児だったの

です。先生や保護者に反抗的な態度をとっていたのでした。私の前では一切そのような素振りを見せることはなかったもので、大変驚きました。問題が発覚したあとは、保護者の相談にも乗り、何度も家まで行って話を聞き、何とか中学校は卒業することができました。高校は行かずに働くことになり、道院も休院していたのですが、ある日、給料が入ったからと、後輩の皆にケーキを差し入れてくれました。周りに迷惑をかけていた彼にも、人を思いやる気持ちがあることを再確認できて嬉しく思いました。

後進育成を一番の目標に

私はたくさんの先輩道院長にお世話になり、今も勉強させてもらっています。今まで何十年も金剛禅を守ってこられた先輩道院長に感謝し、それを踏まえたうえで、やはり後進の育成が一番の目標です。自分が受けた恩を次に還元しようとする人間が育ってほしいと願っています。志を持った人間が一人でも多く育ち、互いに助け合っている環境をつくりたいと思います。

道院長としては、まだまだ駆け出しの私ですが、拳士たちの、特に子供たちの成長は驚くほどに早く、たくさんの喜びを与えてくれます。もちろん、すべてがうまくいくわけではありません。失敗は成長を促してくれます。道院長になるには早すぎると感じていた私ですが、今後、道院長を目指す皆さんにはなるべく早く道院長になってほしいと思います。初めから立派な道院長である必要はないのです。たくさんの失敗と、そんな自分を支えてくれるたくさんの仲間が道院



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

長をつくっていくのです。誰でも誰かの力になれる。まずは小さな架け橋から。そして気づいたら大きな架け橋になっているのではないのでしょうか。20代、30代の道院長と聞くだけで楽しくなってしまう。私も負けずに頑張ります。

昨年の熊本地震の際に、師家はじめ代表、全国の道院長、門信徒の皆様から迅速かつ温かいご支援を賜りましたことを、心から感謝申し上げます。今後とも全国の道院長、門信徒の皆様にお力添えいただきたく、よろしくお願いいたします。

「道院長 元気の素」は、今月より誌面を拡大して、若手道院長の元気をお届けします。引き続き、ご愛読ください。

本山

開催報告

●公認教区講習会(派遣講師)

〔2月5日〕岡山県教区(安田嘉昌)
〔2月18日〕大分県教区(久保田利幸)
〔2月19日〕鹿児島県教区(矢島隆禪)

●教区研修会

〔2月25日〕宮城県教区(矢島隆禪)
〔2月26日〕静岡県教区(青島勉、濱崎哲也)
〔3月20日〕山口県教区(矢島隆禪)

●教区研修会

〔2月5日〕岐阜県教区、栃木県教区、愛知県教区、富山県教区
〔2月12日〕石川県教区
〔2月18日〕東京都教区
〔2月26日〕長野県教区
〔3月12日〕三重県教区
〔3月19日〕滋賀県教区

●小教区研修会

〔2月5日〕神奈川西湘第一小教区
〔2月11日〕茨城県南小教区
〔2月12日〕愛知西三河第二小教区
〔2月15日〕静岡西部第一小教区
〔2月17日〕宮城塩竈小教区
〔2月19日〕静岡富士小教区、三重四日市小教区、福島県中小教区、静岡中部小教区
〔2月25日〕東京第十三小教区
〔2月26日〕北海道札幌第四小教区、北海道苫小牧胆振小教区、

北海道石狩小教区、兵庫東播第一小教区、沖縄小教区

〔3月11日〕愛知東三河第一小教区

〔3月12日〕千葉臨海小教区

〔3月18日〕香川西讃小教区

〔3月22日〕東京第四小教区

〔3月26日〕沖縄小教区、岡山美作小教区、神奈川横浜第三小教区

本山

法階講義(春季大学連盟本部合宿)

2月21日より始まった一般財

団法人少林寺拳法連盟の春季大学連盟本部合宿において、希望する大学生に対して、本山職員による法階講義を行った。講義の時間は各週2時間。社会に出ていくにあたり、生き方の指針として、また逆境において自らを励ます存在として、道院や金剛禅を実生活で役立てることの意義を説いた。近年、回を重ねるごとに希望者が増え、教えを深めることへの関心が学生間で高まっている。各地においても、学生へ金剛禅や道院のすばらしさが伝わり、修行が継続されることを期待したい。(宗務部)

東京別院

級拳士講習会

2月25日、東京別院において級拳士講習会が開催され、13名



が受講した。基本法形や鎮魂行の意義、教典の意味といった、門信徒としての修行の基礎に徹底した内容が展開された。

10〜60代、1〜6級と受講者の幅は広く、中には入門して半年ほどの拳士もおり、少人数ゆえに講師との距離も近く、熱心に学ぶ姿勢がよく伝わってきた。新鮮であった。

次回開催は7月22日。級拳士の時期しか受講できない講習会、皆様のご受講をお待ちしています。(東京別院)

本山

金剛禅講習会(教学)

3月12日、本山にて金剛禅講習会(教学)が開催され、27名が

受講した。講習会のテーマは「生きる力と金剛禅」。大澤隆

代表をはじめ、教学研究委員などが講師となり、教えをどのようにして日常生活の原動力としていくか、そのつながりについて熱心に講義した。

易筋行では、修練に臨む自分の気持ち、それに臨む相手の気持ちを意識し、相互により影響を与え合える修練方法について探求した。

事後のアンケートでは、いずれの受講者も得るものがあつた様子で、新たな発見を経て、今後の修練に意欲を燃やす様子が窺い知れた。(宗務部)



本山

僧階補任講習

(大導師・中導師)

3月12日、早朝より本山にて僧階補任講習が行われた。

講習は、講義と実習を経て、布教師としての自覚を促し、資質向上を図るもので、いずれの受講者も厳肅な雰囲気の中、各プログラムに臨んだ。近年、僧階補任講習の受講者は増加傾向にあり、今回の受講者は、大導師補任13名、中導師補任11名という過去最大であった。(宗務部)

本山

3月度帰山行事

【帰山道院】

東京東陽町道院(道院長・中村清恭)、浜北東部道院(道院長・吉林久幸)



2017年2月度 認証

●新設

熊本健軍道院

外川 誠一

●道院長交代

野田川間道院

古嶋 誠賢

僧階昇任者

大導師

2017年3月12日付

鈴木 隆(群馬太田道院)

神保 一也(埼玉蕨道院)

宮路 文男(埼玉羽生道院)

毛呂 文紀(横浜和泉道院)

佐藤 岩男(甲州大月道院)

伊藤 直幸(静岡掛川道院)

福田 有希(浜岡道院)

長澤 克彦(刈谷中部道院)

日比野 信和(愛知七宝道院)

岸本 章良(篠山中部道院)

中川 純(専門学校禅林学園)

西村 久夫(福岡伊都道院)

原口 秀明(太宰府青山道院)

中導師

2017年2月1日付

吉田 康之(埼玉妻沼道院)

石田 勉(茨木春日道院)

2017年3月12日付

永井 聖二(横浜本郷道院)

栗原 宗一郎(横浜戸塚道院)

宮原 健一(横浜戸塚道院)

嘉瀬 恒夫(東戸塚道院)

岡村 和明(東戸塚道院)

増茂 洋(東戸塚道院)

白坂 晃一(三重箕曲道院)

安井 俊之(三重多気道院)

山添 和重(三重多気道院)

木田 要(神戸兵庫道院)

小野 哲(善通寺中央道院)

法階昇格者

准範士

2017年3月19日付

梅津 晴夫(札幌芝道院)

沼内 寿浩(海老名国分道院)

坂本 康成(奈良中央道院)

木村 龍太郎(奈良中央道院)

片山 光弘(阿南道院)

池上 義昭(行橋中部道院)

お布施

布施

▷多度津商工会議所青年部.....30,000円

▷東京都教区(東京別院新春法会).....10,000円

▷東京大塚道院 阿部 恒明(東京別院新春法会).....10,000円

▷豊田末野原道院 服部 俊美.....10,000円

公認講習会

▷京都府教区.....70,000円

▷宮城県教区.....30,000円

▷静岡県教区.....30,000円

▷岡山県教区.....30,000円

▷大分県教区.....30,000円

▷鹿児島県教区.....30,000円

新春法会

神奈川県教区 中村 袈巳、青森県教区、岐阜

県教区、徳島県教区、勝田台道院 小野寺 米

蔵、富山南道院 木戸 薫、京都西道院 高野

實、報徳桜井道院 柏井 伸一、三重津東道院

濱崎 哲也、境港道院 木村 弘史、川西中部道

院 丸野 俊一、千葉野田道院 森 久雄、奈良

宝来道院 東浦 寿成、千葉川戸道院、京都向

日町道院、大阪伊吹道院、梅津道院、犬山北

道院、高松南道院、牧野 清、新井 庸弘、山

崎 博通、大西 要、濱田 宏行、今城 隆廣、

岡田 孝、加藤 義秋、鎌田 智、川村 芳男、喜

田 良延、小池 孝忠、小池 靖彦、篠原 正、庄

野 雅巳、田中 正則、田原 正晴、峠 徹、西村

建夫、藤本 義政、本田 演朗、森 健太郎、山崎

隆尉、石井 宏明、小笠原 國勝、小川 肇

訃報

こ だ ま

児玉 稔

秋田横手道院・秋田雄物川道院道院長、315期生、大導師正範士七段、2017年2月10日逝去、満64歳

こ ば や し

小林 裕昌

新道北道院道院長、361期生、大導師准範士六段、2017年3月12日逝去、満59歳

少林寺拳法女性拳士北海道交流会

初秋の北海道で、一緒に
少林寺拳法を楽しみませんか？

◆主催：女性拳士北海道交流会実行委員会

◆内容：総裁講話、基本演練、ワールドカフェ、創作団
体演武、動的・静的ストレッチ

◆問い合わせ：

●江別大東道院・高橋康子

TEL 090-3779-6810

メール ebetsudaitodoin@yahoo.co.jp

●札幌あかしや道院・阿達美恵子

TEL 011-261-2040

メール doren@hokkaido.email.ne.jp

◆申し込み先：

●江別大東道院・高橋康子

TEL 090-3779-6810

メール ebetsudaitodoin@yahoo.co.jp

◎日時：2017年9月2日(土) 12～17時

※午前中、自由練習会開催(参加任意)

◎場所：北海道立総合体育センター(北海きたえーる)

◎参加費：2,000円

◎対象：2017年度16歳以上の女性拳士(武階問わず)

※男性有段者同行可(1名)

◎申し込み締め切り：2017年6月30日(金)

◆お知らせ◆「道」は、vol.51をもって終了いたしました。また、「志をつなぐ」は、今後、不定期で掲載する予定です。

編集後記▼5月12日は少林寺拳法を創始した宗道臣開祖のご命日です。ある道院長さんにこんな質問をしてみました。「先生は、もしこの世に少林寺拳法がなくても、それでも道院長をされますか?」と。少林寺拳法あっての人づくり、少林寺拳法なくて何の道院長か! と、そんな反応も想像しました。▼開祖ならば、もちろんそれでも人を集め、思いを語り、人づくりに励もうとされることでしょう。何かほかのいい方法を考え出しても。そう考えてみると、人を集めるエサとなり、人を育てるエサとなる少林寺拳法は、本当にすばらしく、ありがたいものだと思えてきます。▼で、その道院長さんの答えはというと「もちろんやるでしょうね。開祖にも誓いましたし(笑)」。そしてこうも言われました。「技は人づくりの手段。少林寺拳法を教えるのではなく、少林寺拳法で教える……ということです」と。私も深く頷きました。(さ)

表紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアート卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

あ・うん vol. 52
金剛禅総本山少林寺広報誌 2017 皐月・水無月

2017年5月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 大澤 隆

発行所: 金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 坂下 充

印刷・製本: 牟禮印刷株式会社

広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト/大原由軌子

善通寺中央道院 小野 哲

年に一度の合掌礼

思えば35年前、九州の大学に進んだとき、「強くなりたい」という思いから、何か武道を始めようと考えていたところ、キャンパスでクラブ勧誘していた先輩から「香川県出身で少林寺拳法以外に何をやるんだ」という殺し文句で少林寺拳法部に入部しました。在学中に少拳士二段まで^{けんか}允可を受けることができましたが、就職とともに休眠し、25年間休眠状態が続いていました。

復帰したきっかけは、当時仕事や私生活で悩むことが増え、「何とかしたい」と考えているときに、たまたま書店で目に止まったのが『少林寺拳法』愛の価値、力の理想』でした。「そういえば大学生のころは元気だったな。あのころの自信に満ちた自分を取り戻したい」と思い、近くの道院に籍を置くことにしました。

2010年12月に復帰して7年目になりましたが、道院長の勧めもあって、復帰

直後から本山の講習会には欠かさず参加しています。講習会は全国の拳士と触れ合うことで、少林寺拳法の懐の深さを感じ、道院とは違った刺激を受けています。

少林寺拳法から離れて悩んでいたころは、大学時代は部活動ばかりしていたので、「あのころももっと別なことを勉強していれば、今のようないじめな自分ではなかったのでは」と後悔していたこともあり、しかし復帰して程なく、その思いは誤解であることに気づきました。今も昔も少林寺拳法は私に多くの元気と楽しみを与え、自信を持たせてくれます。私を少林寺拳法に導いてくれた先輩のあのひと言と、私の周りのすべての拳士に感謝しています。

金剛禅講習会での新しい仲間との出会いや、そうして知り合った仲間との、年に一度の合掌礼が楽しみでしかたありません。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとしたいい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Nio Ken, Kusshin Geri



宗門の行としての少林寺拳法

に おうけん くっしんげり
仁王拳 屈身蹴

上段振突^{じょうだんふりつき}に対して膝^{ひざ}を十分に使って、かいくぐるように身をかかわす。そのまま後ろ足の引き寄せを利用して蹴^けり返す。

屈身受^{くっしんうけ}をすると相手を視線で捉えにくくなってしまうので、気配の察知^{とら}を常々怠らず、いかようにも対応できる残心^{ざんしん}をしておくこと。

撮影／加々見一 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：倉本亘康 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法